

## ものみの塔による、ものみの塔のための、ものみの塔からの背教

\*\*\* 塔04 3/1 10ページ 9節 忠実で、しかも思慮深い「奴隷」 \*\*\*

「忠実で思慮深い奴隷」という表現は、西暦33年から今までのどの時代であれ、地上に存在する一団としての油そそがれた霊的国民の全員を指します

\*\*\* 塔01 1/15 29ページ 統治体は法人とどのように異なるか \*\*\*

1971年10月1日に開かれた年次総会で与えられました。話し手の一人はその時、「忠実で思慮深い奴隷」の統治体が、ペンシルバニア州のものみの塔聖書冊子協会よりも幾百年も前から存在していることを指摘しました。(マタイ?24:45 - 47) 統治体は、ペンシルバニア法人が設立されるより18世紀余り前の、西暦33年のペンテコステの時に構成されました。当初、統治体は7人ではなく、12人の使徒たちで成っていました。

2012年10月6日に、かつて「スタンレー劇場」として知られていた、ジャージー・シティ大会ホールで、恒例の「ペンシルバニア州ものみの塔聖書冊子協会」の年次総会が開かれました。



この時の主な内容は、いずれ、ものみの塔誌などで知らされると思いますが、扱われた話の中にこのようなものも有りました。

ジェフリー・ジャクソン [Geoffrey Jackson]-談：

「今まで慣れ親しんできた理解を変更するには勇気がいる」  
その勇気を持って変更した、こととはつまり要約すると、  
統治体だけが思慮深い奴隷であることを発見した。  
食物を供給しない姉妹たちが思慮深い奴隷であるはずがない。など。

スティーブン・レット [M. Stephen Lett]- 談： 忠実で思慮深い奴隷は誰か？

忠実で思慮深い奴隷：それは本部に住み、キリストの臨在の間、霊的な食物を用意し配ることに直接携わる油注がれた者の小さなグループである。

ガイ・ピアース [Guy H. Pierce] 談： - これらのことはいつ起きるか？

マタイ24:30,42,44 はイエスキリストが裁きのために大艱難で”到来”する時のことを語っている。ゆえに次の節の忠実で思慮深い奴隷の任命は西暦33年ではなく1919年である！

「忠実で思慮深い奴隷は西暦33年のペンテコステ以降存在してきた」と言う「真理」を「勇気をもって」遺棄し、西暦1919年に誕生したという教えに立ちました。

これは「変節」であり、ものみの塔の表現を借りれば、「以前に公言していた事柄を放棄する」出来事です。

また、同総会で、「忠実で思慮深い奴隷」は油注がれたクリスチャンであるという、これま

でに長年慣れ親しんできた「公言していた事柄」を退けて、「本部の統治体の事である」と言う発表を行う事により、そのような「別の教え」にやすやすと染まってしまったことを露呈してしまいました。

こうした事をギリシャ語の名詞で一言で言い表すと「アポスタシア」と言います。字義的には「離れて立つ」ことを意味します。その名詞には「遺棄、放棄」という意味があります。

つまり、ものみの塔はものみの塔から背教しました。これは少しも珍しいことではなく、100年以上にわたって、むしろ頻繁に行われてきたことであり、ものみの塔の歴史は「教理放棄、新設、遺棄、新設・・・」の繰り返しであり、言い換えれば「背教」の歴史の上に成り立っています。

正に、ものみの塔による、ものみの塔のための、ものみの塔からの背教です。

\*\*\* 洞 - 2480ページ 背教 \*\*\*

「ギリシャ語のこの語（アポスタシア）はアフィステーミという動詞に由来しており、字義的には「離れて立つ」ことを意味します。その名詞には「遺棄、放棄、もしくは反逆」という意味があります。…したがって**以前に公言していた事柄を放棄すること**、および**主義や信仰を完全に捨て去る**ことを意味します」

